令和５年度 第３回名取市スポーツ推進審議会 会議録

○ 日 時 令和５年１０月２４日（火）午後１時３０分～午後３時３０分

○ 場 所 仙台法務局名取出張所２階 名取市教育委員会 会議室１

○ 出席者数 出席委員９名　（福井真司委員、星忠一委員、佐藤克也委員、武田純子委員、二階堂芳賞委員、浅川輝彦委員、桃井恵美子委員、庄司昇委員、安部久美子委員）

欠席委員１名　（高橋睦子委員）

事 務 局６名（教育長 瀧澤信雄、教育部長 齋藤正光、文化・スポーツ課 課長 中島千鶴子、課長補佐 浅見智彦、スポーツ振興係長 佐藤洋、主事 及川翔也）

計画策定業務受託者　ランドブレイン株式会社　主任　井芹　太郎

会 議 概 要

1　開会

2　あいさつ

○　瀧澤教育長

皆さんこんにちは。委員の皆様には、お忙しい中、本日お集まりいただきましてありがとうございます。8月29日に第2回目を開催してから2ヶ月が経過をいたします。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨日ですね市内の学校でインフルエンザによる学級閉鎖を3日間行う学校が3校急に出てきました。9月中は結構コロナやインフルによる学級閉鎖がありましたが、その後はしばらく落ち着いていたのですが、インフルがちょっとまた流行ってきたかなというふうな感じがいたします。21日の土曜日に市内3高校野球定期戦を開催しました。これは教育委員会の方で、もう30年近くやっている事業なんですけれども、前日になって急遽名取北高の野球部でインフルが蔓延して選手の参加ができないという連絡があったんですね。ちょっとコロナが落ち着いてきたと思ったら、インフルが流行ってきたなというような感じもいたします。

3高校野球定期戦をはじめですね、前回からの2ヶ月の間に、9月の当初には、ドリームベースボール張本選手や堀内選手なども来ていただいて子供たちへの指導、なとりの選抜チームとの対戦など、大きなイベントもありましたし、中学校の新人大会も、9月に終わっております。また、10月9日には残念ながら雨で体育館での開催となったんですけれども、市民総合スポーツ祭を開催しております。いろいろなスポーツに関するイベントが最近多くなってきておりますけれども、そういった取り組みも含めましてですね、この名取市のスポーツ推進計画の中に、どういった方向性を盛り込んでいくかということについて、各委員の皆様、それぞれのお立場から、お考えがおありだと思います。前回の8月の時は、計画の構成案について、いろいろご意見をいただきました。今回は事前に素案を送付させて頂いております。市民ワークショップやアンケートの結果なども踏まえた素案ですけれども、まだまだ素案の段階ですので、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○　星会長

皆さんこんにちは。自分がちょっと関わったことで9月20日の生き生きスポーツクラブ体力テスト、10月9日のスポーツ祭での体力テスト、そして職員採用試験の体力テストの測定に携わったんですけども、その中で生き生きスポーツクラブでは60代から80代の人たち、30名近く参加があって、70代が一番多く、男性が4人で、あとは残りの方々が女性の参加でした。もう皆さん生き生きとしてました。去年より落ちたなとか、これ来年頑張ろうなとか、そういう空気が出てました。10月このスポーツ祭の時には、子供から親子連れ、そして年配の人が体力づくり、体力テストに、参加して、そして、だいぶ劣ったなあとかお父さん頑張ってとか、お前がしっかりやれよとかっていうそういう雰囲気が感じられました。あとは、最近20歳前後の体力テストを担当したんですけども、そのときでも、やはり体を動かすことの喜び、そして、体を動かすことが青春だなという、なんかそういうことも感じました。

測定していて一番感じたことは、まず何よりも空間が必要だと。そしてあと時間的なもの、時間が大事。それと、自分がいて、仲間がいること、これが私の考えるスポーツを行う場面での原動力になるのではないかなということで体力テストから、そういうことを思ったので、ちょっと一言だけ言わせてもらいました。やはりそういう活動の場を作るのが、これからの私たちにとっても必要なことだと思いますので、今日の話し合いの方もよろしくお願いします。以上です。

3　会議署名委員の指名

慣例により輪番制としている。佐藤委員、武田委員の２名を指名した。

◇　会議公開の確認

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱(以下、要綱)）第２条により、公開の対象となる旨を告げる。要綱第４条により原則公開であること、会議の議事録については概要筆記とし、委員名は伏せた形で記載することを確認した。

4　議題

（1）報告事項　ア 市民アンケート・市民ワークショップの結果について

（2）協議事項　ア 名取市スポーツ推進計画（素案）について

議事の経過の概要及び議決の結果

（1）報告事項

ア 市民アンケート・市民ワークショップの結果について

・事務局より市民アンケート・市民ワークショップの結果について説明。

〈質疑応答〉　意見なし

（2）協議事項

ア 名取市スポーツ推進計画素案（案）について

・事務局より素案について説明し、原案のとおり承認された。

〈質疑応答：第１章、第２章まで〉

委　員： P8の本市の特性総人口の推移について、2020年までの実数の掲載だが、将来の推計値とい

うことで 2030 年、2040 年、2050 年とどうなっていくのか個人的に気になるところである。

事務局：第六次長期総合計画の計画期間最終年度における目標人口が 85,000 人となっております。

委　員：P12 の子どもの実施状況について、小学 5 年生で 83.0%、中学 2 年生で 88.4%となっている。また、他のアンケート調査結果をみると、好きか嫌いかという設問の回答において好きとやや好きを合わせると 8 割以上となっている。このようなことから 8 割以上の子どもたちがスポーツを実際やっていて、スポーツが好きだということになると思うが、市民ワークショップの意見として、子どもたちの運動好き・嫌いの二極化が進んでいるということを感じられているようだが、調査結果からみるとそのようなことはないように感じられ、運動好き・嫌いの二極化という表現に違和感がある。

事務局：表現等について、検討させていただきます。ワークショップで出た意見については、生の声でありますので、このことも踏まえて検討させていただきます。

委　員：子どもの運動好き・嫌いについて、経験上、低学年は嫌いだと感じる。高学年になってくるとスポーツ少年団においても中心的な立場になってきて、技術も上がり、楽しく感じる時期ではないかと感じる。中学生も 3 年生が引退して、2 年生が部活動の中心的な立場になってくる時期で同様と感じる。なので、アンケート調査の標本とする対象学年によってはバラつきが出てくるのは仕方ないものと感じる。

教育長：10 年前の教育現場の話にはなってしまいますが、感覚として子どもは体育の授業が好きだと感じます。基本的に子どもは体を動かすことは好きだというふうに感じておりました。
しかし、小学生においては体育の授業以外でスポーツに積極的に取り組む子どもとそうでない子どもという二極化があるのかなという印象ではありました。ただ、好き嫌いで言えば、子どもは好きだと思います。

委　員：無関心へのアプローチと、関心準備期へのアプローチとでは、それぞれ異なるかと思う。
全国的には中学 2 年生女子は 20%くらいスポーツ嫌いというデータもある。教育現場の人間としてこの 20%を無視するわけにはいかないと考えている。

事務局：ご意見を踏まえて、計画の方向性等については、整理していきたいと思います。
なお、ワークショップの意見は紹介の意味合いで、それのみで施策が組み立てているわけではないことを補足させていただきます。

委　員：骨子案において、子どもの運動好き・嫌いの二極化という表現になっているが、体力・運動能力の二極化ということであれば理解できる。

事務局：ご意見を踏まえて表現を見直したいと思います。

委　員：市民のスポーツ実施状況について、35.7%という数字を大きく打ち出して、名取市の実施状況が低いということを国・県との比較を追加するなどして強調した方が良いのではないか。

事務局：ご意見を踏まえて、情報の見せ方等を検討したいと思います。

〈質疑応答：第 3 章以降〉

委　員：将来像について、「ふるさと」を削除し、「つながる」を強調したことは評価できる。3 つの基本目標に横串が刺せたのでとても良い。つながった後の輪の広がり、仲良くなるというニュアンスの和、P19 の写真挿入予定スペースもそのような写真が掲載できるといいと思う。目指す姿については、わかりやすくなったと感じる。

会　長：P17 の文章について、「～も」が続くので、文章を精査するように。

委　員：P16①について、「人からまち」、「地域と地域」、「名取と全国」と、発展的につなげていくことを考えると「誰もが」を強調するといいのではないか。また、「健康“に”つながる」

のか「健康“で”つながるのか」検討していただきたい。

事務局：ご意見を踏まえて、検討したいと思います。

委　員：「スポーツ」という言葉に違和感がある。スポーツが嫌いな人にとっては「運動」のほうが抵抗感が少ないと思う。

委　員：現場でも高齢者からは「スポーツは無理」という声が多く、スポーツの心理的ハードルを緩和するためには、運動のほうが馴染むのではないか。

事務局：対象に応じて「スポーツ」と「運動」の使い分けを検討したいと思います。

委　員：「全国」という単語は、やや話が大きいと感じる。全国に開けて、何を目指すのか。

事務局：事務局内でも迷っている箇所であります。引き続き再考したいと思います。。

委　員：P16の22行目「メタボ」、P19の3行目「仙台89ers」、それぞれ正式名称にすべき。

事務局：委員ご指摘の通り修正いたします。

委　員：「子育て世代」と「女性」という属性は分けるべきか、分けるのであればどう分けるのか、もう少し検討を深めた方がよいのではないかと感じる。

事務局：一緒にしてしまうと、市が「子育て＝女性の仕事」という時代錯誤な感覚をもっているという誤解を与えかねないため、分けた方がいいと考えておりますのでご指摘の箇所については再考いたします。

委　員：P24に記載の「福祉団体」とは具体的にどのような団体を指しているのか。

事務局：社会福祉協議会、福祉関係の団体、高齢者サロン、地域包括支援センター等を想定しています。

委　員：高齢者が高齢者を支えるか、それができなければ施設に入る・通うという現状であり、自宅で若者が支えるという形はほとんどない。スポーツは公民館でやっているイメージが強い。このような実態を踏まえると福祉団体よりも地域団体のほうが適当かと思う。

事務局：ご意見を踏まえて、検討したいと思います。

委　員：小学3年生はパラリンピックを教材としてボッチャを体験する（4年生は手話）。障がい者スポーツをしている方との交流や、障がい者スポーツを知る機会があるといいと思う。

委　員：現状課題が丁寧に書いてあるが、具体的な施策はこれに紐づいて今後記載されていくのか。

事務局：当計画はマスタープランの位置づけで策定しております。個別施策については、今回の計画には記載せず、別途検討していく予定です。

委　員：つまりアクションプランではないという位置付けか。

事務局：委員お見込みのとおりです。

委　員：P26について、「均衡のとれた～」というハード面のニュアンスを感じるが、ソフトを含めて使いやすくするという観点を加えた方がいいのではないか。記載順も施設の長寿命化等の手法論は後の記載が妥当ではないか。「40歳以上～」の表現も精査されたし。

委　員：P24について、高齢者に関する記載のボリュームが少ない。健康寿命のデータ等掲載してはいかがか。なお、現状の数値を把握していればこの場でも紹介してほしい。

委　員：男女ともに80歳を超えていると記憶している。令和2年度で男性80.75歳、女性84.0歳。令和4年はもう少し伸びているはずである。

事務局：令和4年度の平均寿命は女性87.1歳、男性81.1歳となっております。

委　員：データとしてはそうかもしれないが、現場の肌感覚とは異なる。他の市町村でも高齢者福祉の不足に対する声をよく聞く。要介護者数も増えている。

委　員：この個所こそ、先ほどの意見のように「運動」や「体操」の表現が馴染むのではないか。

事務局：ご意見を踏まえて、検討したいと思います。

委　員：P27について、地域スポーツの振興は公民館との連携が重要に感じる。また、P26について、「床」という表現を使用しているが、屋外も含めて「場所」が妥当ではないか。
また、P28について、「賑わいの創出」をここまで謳わなくてもいいのではないか。

事務局：ご意見を踏まえて、検討したいと思います。

委　員：目標値としてのスポーツ実施率について、県が60%と設定しているのであれば、同等程度の水準を目指してはいかが。実現可能性も含めて検討すべきと考える。

事務局：県と同等も考えましたが、本市の場合、県の計画よりも計画期間が短いので、上昇率を参考に設定したものです。

委　員：資料編等も付属して最終的な計画書ができてくると思うが、ワークショップやアンケートの結果が施策に結びついてきているので、ワークショップやアンケート結果のサマリーページを設けてはいかがか。

事務局：ご意見を踏まえて、検討したいと思います。

〈その他スポーツに関する意見について〉

委　員：スポーツ祭に参加して、家族層の参加が印象的だった。キッズコーナー等を設けることで、大人同士、子ども同士楽しめるのではないかという感想を抱いたので、今後のイベントの参考にしていただきたい。また、各地区に高齢者サロンがあるが、地区間の交流がないので、スポーツをもとに地区間の交流が生まれるといいと思う。

5　閉会

以上、会議の顛末を記録し、正当なることを証すため、ここに署名する。

令和　　年　　月　　日

会議録署名委員　武田純子　印

会議録署名委員　佐藤克也　印